

# 日本計量新報

計測と科学

日本計量新報社

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112

Yamato

業界初の強制除去機能を  
搭載で作業効率アップ  
デジタル式上皿自動はかり

"UD9-1V/1VD"



天和量衡株式会社  
電話 076(076)918-8577

## 今週の主な記事

- 計行審計量制度検討小委員会開く ①④面
- 新光電子、第1回ものづくり日本大賞優秀賞受賞 ①④面
- メトラー・トレド(株)細田裕之社長インタビュー ②面
- 経済と経営アンケート(3)、2005年分析展開催 ③面
- 特定計量証明事業管理講習会、硬式試験講習会 ③面
- 第1回計量行政審議会議事録、DVD・パースワード、訂正 ④面
- 私の履歴書 齋藤勝夫(株)社説、計量とくちくちメモ ⑤面
- 特集・全国計量器販売事業者連合会 ⑥⑦⑧面

# 計行審第1回計量制度検討小委員会開く

## 計量法大幅見直し、委員からさまざまな意見

### より合理的、効果的の制度へ

計量行政審議会の2005年度(平成17年度)第1回計量制度検討小委員会(中田哲雄委員長)が8月8日午後、東京・霞ヶ関の経済産業省本館第1共用会議室で開かれた。諮問内容である計量器の検査・検定、適正計量、計量標準・標準物質の供給体制整備、その他横断的事項について検討した。小委員会に3つのワーキンググループ(WG)が設けられ、今後は諮問内容に沿って小委員会とWGで検討を行う。年内をメドに基本的方向を計量行政審議会で審議し、再度小委員会、WGで検討する。来春には答申を取りまとめる予定。

7月26日に開催された05年度第1回計量行政審議会で、諮問内容については、計量制度検討小委員会を置き、そこで審議を進めていくことが承認された。今回の小委員会はその初回となる。

事務局を担当する数内雅幸計量行政室長が審議



7月26日に開催された05年度第1回計量行政審議事進行は中田委員長が務めた。原山保人審議官

が、配付した資料「新しい計量行政の方向について」の概要と、第1回計量行政審議会で委員の主な発言を紹介した。これをたたき台に、諮問で打ち出された①計量器の検査・検定、②消費者に身近な商品の適正計量、③計量標準・標準物質の供給体制の整備、またトレーサビリティの確保、④その他計量単位、計量士に係る制度など横断的事項、の見直すべき4項目について、委員がそれぞれの立場から意見を述べた。「1回目ですので忌憚のない意見をお聞かせ下さい」という中田委員長の挨拶に呼応するように委員の発言が続き、予定時間をオーバーして審議は続いた。

K-2 型防水式

ほけ式指示はかり 専門メーカー

富士計器製造(株)

e-mail: kb571328@magic.msttcc.or.jp 電話: 0272(42)4555

ら例を挙げると、検査・検定では、特定計量器18種を見直すことは日程的に間に合うのか、という意見が出た。また、計量事務の自治事務化による自治体間のバラつきを危惧する声が上がった。

適正計量については、計量標準に関しては、医療などの分野にも計量標準制度を持ち込んで、安心・安全を担保するべき、という意見が出た。

最後に齋藤浩産業技術環境局長が挨拶した。計量は社会の根本を担う基礎である以上、変えてはいけない部分がある。一方で変えられるところは抜本的に変える必要もある。情報公開においては、誰にでもわかるように、

## 第1回ものづくり日本大賞 新光電子が優秀賞受賞



新光電子(株)(文京区湯島3-9-11、岡崎裕社長)の開発グループが「ものづくり日本大賞」の優秀賞を受賞した。

受賞対象は「音叉式高精度力センサの開発とその応用」。同社が日本で唯一開発に成功した音叉式

高精度力センサは、耐久性、信頼性、長期安定性、温度特性、低消費電力等に優れており、音叉センサを搭載した音叉はかりは国内はもとより、世界中に輸出されて好評を得ている。また、国立天文台による世界最大級の光

望遠鏡「すばる」を支えるキーテクノロジーの一つになっている。

8月5日、経済産業省関東経済産業局で優秀賞の伝達式が挙行政された。

「ものづくり日本大賞」とは

政府は新たな総理大臣表彰制度として「ものづくり日本大賞」を創設した。この制度は、我が国

湿潤の校正は SATO

株式会社 佐藤計量器製作所

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112

の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくため、製造・生産現場の中核を担っている中堅人材や、伝統的・文化的な「技」を支えてきた熟練人材、今後を担う若年人材など、「ものづくり」に携わっている各世代の人材のうち、特に優

てもいいのではないかとという意見が出た。それに対し、不適正の実態はほとんどヒューマンエラーで、悪意に基づくものはほとんどない。ただ、誠実に商いをしている証を制度にする方法もあるのではないかと、という発言があった。

計量標準に関しては、医療などの分野にも計量標準制度を持ち込んで、安心・安全を担保するべき、という意見が出た。

最後に齋藤浩産業技術環境局長が挨拶した。計量は社会の根本を担う基礎である以上、変えてはいけない部分がある。一方で変えられるところは抜本的に変える必要もある。情報公開においては、誰にでもわかるように、